法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-28

【図書紹介】『哲学の変換と知の越境 : 伝統的思考法を問い直すための手引き』牧野英二／小野原雅夫／山本英輔／齋藤元紀編　法政大学出版局　二〇一九年

SUGASAWA, Tatsubumi / 菅沢, 龍文

(出版者 / Publisher)
法政哲学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
HOSEI TETSUGAKU : BULLETIN OF HOSEI SOCIETY FOR PHILOSOPHY / 法政哲学
(巻 / Volume)
17
(開始ページ / Start Page)
71
(終了ページ / End Page)
71
(発行年 / Year)
2021-03-30

【図書紹介】

『哲学の変換と知の越境　伝統的思考法を問い直すための手引き』

牧野英二／小野原雅夫／山本英輔／齋藤元紀　編　法政大学出版局
二〇一九年

菅沢　龍文

本書は牧野英二教授の法政大学ご退職を機会に編まれた論集である。編者を含めて一六名の哲学諸分野の研究者たちが、四部構成の一部が四つの章から成る、全一六章を分担執筆している。その各章で次々と繰り広げられる伝統的哲学知の「変換」と「越境」が、小気味よく現代の諸学問や諸事象へと切り込んでいく。これは、まるで一六幕のスペクタクルである。

その一六幕を試みに言葉で羅列すれば、第一部では、1.「津波てんでんこ」と「赦し」、2.「共同体と寛容」、3.「人工知能（ＡＩ）」と「意味」、4.医療の「仁恵原則」、第二部では、5.「場所」と「言葉」、6.「コミュニケーションの構造」、7.「ハイパー資本主義」、8.「地球環境危機」と「生態学的平等」、第三部では、9.「多元的実在論」、10.「人工知能（ＡＩ）」と「意識」、11.「自己意識」と「第三者的観点」、12.「理解」と「追体験」、13.「創造的問題解決」、14.「完全性」と「陶冶可能性」、15.「世界市民教育」と「愛国心教育」、16.「心的外傷」と「人生」、といった具合であるが、もちろん本書では、これらのあえて選択された言葉だけで尽くせない、広大な情報や思想が数多の言葉によって開示され、考察されている。

それでは、これらの壮大な語りを四部に括っているテーマは何か。第一部では「複雑化社会のパラドクス」であり、哲学知は現代社会の複雑化のなかで生ずるパラドクス（逆説）に直面すると考えられる。第二部では「住むことと生きることの条件」であり、哲学知は現代における「住」と「生」との大変貌に直面すると考えられる。第三部では「知と心と現実の〈間〉」であり、哲学知は「知」や「心」がとらえる世界の、例えばデジタル情報化の進行によって生ずる、「現実」の揺らぎに直面すると考えられる。そして第四部では「倫理的・教育的ジレンマと市民教育」であり、哲学知は価値観の多様化の進行のなかでの、倫理や教育におけるジレンマの増大と、新たな市民教育の模索とに直面すると考えられる。例えば第一部の3.では、人間のためのＡＩが、ＡＩを創造した人間の能力を超えて人間を支配すると想定されるパラドクスについて、自らを「変換」して「越境」する哲学知がどう考えるか、が語られる。

このような哲学知に突きつけられた「変換」と「越境」の課題を、読者は本書の著者たちとともに実践することを要求される。